

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4111611085		
法人名	医療法人社団 栄寿会		
事業所名	グループホーム栄寿荘		
所在地	佐賀県杵島靴江北町大字上小田280-1		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/41/index.php?action_kouhyou_pref_topijigoyosyo_index=true
-------------	---

平成29年3月15日よりURLが変更になります。新しいURLは『www.kaigokensaku.mhlw.go.jp』です

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年2月23日	外部評価確定日	平成29年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症対応型の施設であるため、入居者様の行動心理症状に目を向けてケアにあたることを心掛けています。少しでも行動心理症状が穏やかになるように、入居者様が安心と安らぎを感じて過ごして頂ける環境作りに努めています。また、人工透析の方、在宅酸素利用の方など医療ニーズの高い方の受け入れも行っています。ご家族様との信頼関係構築を大切にしており、面会の際はご本人様の状況報告を行い、情報の共有に努めています。出来る限り閉鎖的な環境とならないように、ボランティアの受け入れや地域の夏祭りへの参加などを積極的に行っています。</p> <p>当法人には認知症介護指導者が在籍しており、指導者のもとで認知症介護実践者研修やリーダー研修でのスキルアップ、また、日頃から虐待防止などの指導を受け、スタッフ全員が認知症ケアについて学ぶことを大切に意識して取り組んでいます。職場環境としては、挨拶や礼儀など社会人としてのルールを大切にしています。10代～60代までの幅広い年齢層で構成されていること、お互いを尊重できるチームワーク作り、人材育成など働きやすい明るい職場環境作りに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設16周年を迎えた事業所である。母体の法人理事長が認知症の方に専門的な支援と、地域に貢献したいという思いから設立され、「私達は良き出会いに感謝し、互いに尊敬し、明るいホームを目指します」の運営理念はその思いと共に、現在の職員に引き継がれている。職員で話し合った支援の心構え5原則「叱らない、怒らない。責任感のある仕事をする。笑顔でケアにあたる。相手の立場に立ったケアをする。利用者の笑顔を引き出すケアをする」が実践されている。利用者一人ひとりのこれまでの人生や人柄を大事にし、尊厳を尊重した支援は、利用者の穏やかな表情となって現れている。</p> <p>地域とは積極的に交流を図っている。地域の運動会や文化祭にも参加している。地元子どもクラブのハロウィンパレードや、大学生と高校生の協力で初めて催したオレンジカフェは、家族や地域住民の参加も多く、利用者も満足であった。</p> <p>食事には調理に、調理専門の職員を雇用しており、そこで得られる時間は、職員に利用者に関わる機会をより多くしている。</p> <p>以前の利用者の素晴らしい貼り絵の作品をうまく利用したり、使用されていた高価なリクライニング式車椅子の寄贈が家族からあっているのも、この事業所ならではの点である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症高齢者の「人としての尊厳」が損なわれる事無く、地域や家族の一員として生き生きとその方の役割を果たして頂けるような施設理念を管理者、職員で作上げた。スタッフルームや施設内に掲示し常に念頭に置きながら実践出来るように努めている。	認知症高齢者の「人としての尊厳」が損なわれる事無く、それぞれの人生を受け入れ、人として理解し、思いを大切にするケアの在り方を勉強会を通じて考え、管理者、職員で理念を共有して、支援に繋げている。	事業所開設時の運営理念を基本にして、より具体的な理念や目標を年度初めに検討している。理念を掲示して職員の目につきやすくするだけでなく、日頃の支援や、定例会議の中で、運営理念を意識しながら、理念の共有に努めている。管理者も場に応じて適切な指導、助言を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に地域の中心部に位置し、常に地域の情報も得られる。区長はじめ老人会長、民生委員、児童部とは交流が出来る。地域ボランティアとの交流も積極的に行い協力、支援頂いている。	地域の方々がボランティアで来荘され、音楽、歌、踊り、傾聴など、利用者様も一緒に参加して楽しんでいる。スタッフと近隣を散歩して、顔なじみの方々とお話しも出来る。	地域と積極的に交流を図っており、地域にとけこんでいる。認知症啓発のための法人の劇団「にわか劇団」のメンバーに所属している職員もあり、地域の集会や老人クラブの集まりに出かけて喜ばれている。地域自治会には法人として参加しており、地域からの回覧のお知らせも見受けられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な機関(GH運営推進会議、民生委員研修、地区老人会)において、認知症を理解して頂くような研修を実施している。又、地域の方々へも親しみやすく、気軽な相談場所として活用される様掛け行っている。「認知症劇」にも取り組み、分かりやすく理解して頂ける様工夫行っている。	様々な機会において、(運営推進会議、民生委員研修、地区の老人会、地域の夏祭りでの観劇)にて認知症を理解してもらえよう取組をして、理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月毎の入居者状況、行事報告行いながら施設内外の情報交換行っている。又、認知症に関する様々な情報を提供する事で、推進会議の委員個々において認知症についてより理解を深められ、熱心に取り組んで頂いている。今後も情報交換し多くの意見を頂戴しサービス向上に繋げていきたい。	民生委員、区長、老人会長、知見者、包括職員へ、月毎の入居者状況、行事報告を行いながら、施設内外の情報交換を行っている。認知症の理解を深めてもらい、サービスの向上に活かしている。	年6回の推進会議は事業所からの報告で終わることなく、各委員と有意義な意見交換ができています。芝生の庭の活用や、桜木の植樹の提案、地域の祭りへの参加のお誘い、初めて開催したオレンジカフェの運営等、サービス向上に活かされている事例は多い。外部評価の調査日には、推進会議の委員である地域の区長が勉強のために訪問される等、会議外でも積極的に関わっていただいている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営上の疑問や問題点は逐一、市町村へ伺いを立てながら、サービス向上へ努めている。又、施設側からの意見も積極的に伝達出来ている。(包括会議への参加等)	運営推進会議へ役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点、疑問などを伝え、伺いながら、サービスの向上に努めている。	行政の担当課には管理者が度々出かけて、諸手続きだけでなく課題やその解決策を共有している。また、定期的に開催される町全体の包括連絡会議で諸情報を得ると共に、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束に関する考え方をスタッフで協議し、安全面でやむを得ない場合以外での拘束予防に努めている。基本的に玄関は緊急、危険の予測ある以外は開放している。家族様へも説明し、理解得られている。	身体拘束に関する考え方をスタッフで協議して、安全面でやむを得ない場合以外での拘束予防に努めている。無断外出や転倒などのリスクもあり、ご家族様へ説明し、一時的に施錠したり、センサーマット使用して、理解も得られている。	外部研修や独自の勉強会等で身体拘束のもたらす弊害を職員全員が認識している。運営規程にも「身体拘束その他行動を制限する行為を行わない」とうたっている。直接的な身体拘束の事例はないが、現在やむを得ずに家族の理解を得て、一時的に玄関の施錠が見られるユニットがある。	利用者の状況から安全面や防犯を考慮しての施錠である。玄関まで行く利用者の心情に思いをはせて、日中の施錠なしの支援を考慮中であり、今後を見守りたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや施設内研修の場において、常に「人権意識」を念頭に置き「高齢者虐待防止」について話し合う機会を設けている。	ミーティングや勉強会、研修などで常に「人権意識」を念頭に置き、「認知症高齢者の虐待防止」について話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体として「権利擁護」について常に関心を持ち、利用者様、家族様はもとより、地域の方々への助言、関係機関等への紹介が出来る様支援行っている。	施設全体として「権利擁護」について、研修などに参加し、管理者及び職員が関心を持ち、利用者様、家族様、地域の方への助言を頂き、必要であれば関係機関などへの迅速に対応出来るよう支援行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前には可能な限りご本人様、家族様で施設見学をして頂き、直にGHの雰囲気を感じ取ってもらった上での契約をお勧めしている。見学の際には先方様の不安や要望などもお尋ねしながらサービスの内容を十分に説明し理解して頂く様努めている。	契約の事前には可能な限りご本人様、家族様で施設を見学して、GHの雰囲気を感じ取り、当施設の特徴などお伝えしている。納得したうえで契約をお勧めしている。不安や要望などもお尋ねしながら、サービスの内容を十分に説明し理解して頂くよう、出来る範囲で、要望に応えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何よりも利用者様が意見や不満を出して頂けるような遠慮のない施設の雰囲気作りに努めている。家族様の面会も積極的にお願ひし家族様を通してご本人様の要望などを聞き取りケアに活かす様に努めている。意見箱、ポスター掲示し苦情や意見が滞る事の無い様努めている。	利用者様が意見や不満を出して頂けるような遠慮のない施設の雰囲気やスタッフとの関係作りに努めている。家族様の面会も積極的にして頂いており、家族様を通してご本人様の要望などを聞き取り、ケアに活かすよう努めている。ポスター掲示することで家族様に意識して頂いている。	面会時における職員の笑顔や気軽な声かけは、家族も相談しやすさを実感している。家族の不安や心配ごと、要望等をきちんと受け止め、支援に活かしている。苦情処理等についても入居時に説明し、掲示もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフミーティングを行い介護部長が出席し運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設けている。必要があれば経営者会議の折に繋げている。	スタッフミーティングでは介護部長、看護師、が出席し、違う部署から意見を求めている。月一回の経営者会議のことを管理者から報告することで、情報を共有している。職員が自由に意見を出せる様に、雰囲気作りを行っている。	管理者は意見や発言しやすい雰囲気づくりに努めている。介護経験の豊富な職員と若い職員との間をユニットリーダーがうまく取っている。月行事の確認や改善点、業務とケアのバランスのとり方、業務内容の工夫や時間の使い方、その他運営に活かされている事例は多々ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や勉強会への出席を奨励しサポートを行っている。またスタッフ個々への業務の偏りが無いよう分担し働きやすい職場環境に努めている。	職員の意見を聞き、働きやすい環境を整え、資格取得や研修会の出席を奨励し、サポートを行っている。不定期で食事会や法人内の行事等で職員の心身のリフレッシュに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護指導者を配置しケアプランから認知症介護に至るまで毎月勉強会の開催を行い、職員一人ひとりのレベルアップを目指している。	認知症介護指導者を配置している。、月1回のOJTにて課題を決め勉強会を開催している。年に数回スタッフが外部の研修に参加しており、内部に持ち込み他のスタッフに勉強会にて報告し、育成に繋がっている。資質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加し、同業者との連携を図っている。またそこでの知識を用いて勉強会を適宜開催している。	グループホーム協会の研修に参加し連携を図っている。学んだ事を施設で勉強会を開催している。職員が研修会などに参加することで、他施設との交流を図る機会をつくり、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と共に施設内見学して頂き、直接施設の印象や要望などをお聞きする機会を設けている。	ご家族とともに施設内見学をして頂き、直接に施設の印象や要望などをお聞きする機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全職員和やかな雰囲気に対応できるよう心掛けご本人やご家族の不安、要望には傾聴しながら信頼関係を築くよう努めている。	全職員和やかな雰囲気に対応できるよう心掛け、ご本人やご家族の不安、要望には傾聴しながら信頼関係を築くように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の段階からGH内ケアマネージャーも同席行き、ご本人様やご家族様の悩みや抱えられている問題について十分に聞き取りを行っている。他の福祉サービス情報の提供も出来るようにしている。	初期相談の段階からGH内ケアマネージャーも同席し、ご本人やご家族の抱えられている問題について十分な聞き取りを行い、他の福祉サービス情報の提供もできている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GH内で利用者様と一緒に過ごす中で、様々な気づきや学びを得る機会が多いことを感じている。利用者様の残存能力を発揮して頂き、少しでも長く継続して行けるように支援し、今以上に信頼関係を築けるように努めている。	芋の植え方や花の活け方など利用者から教えて頂いている。GH内で利用者と共に生活を営む中で、たくさんの気づきや学びを得る機会が多いと感じている。利用者の残存能力を十分に発揮して頂けるように努め今以上に信頼関係が築けるように努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とコミュニケーションをとる事を大切にしており、スタッフと何でも話ができる気軽な関係を目指している。正直な意見を頂けるような環境づくりに努め、ケアプラン変更時期の担当者会議には、ご家族様にも参加して頂き、ケアの方針を一緒に考えて頂いている。	御家族とのコミュニケーションも大切にしており、スタッフと遠慮のない気軽な関係を目指している。素直なご意見頂けるような環境づくりに努めている。ケアプラン変更時期の担当者会議には、ご家族にも参加して頂き、ケアの方針を一緒に考えて頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親戚の方、友人、知人の方へも気軽に面会に来て頂ける様、日頃より声掛け行っている。民生委員の方にも協力頂き、地域の行事(祭り、文化祭、イベント)等への参加も出来る範囲での支援に努めている。	御家族や近隣の方達へも気軽にお訪ね頂くよう、日頃から親しく声掛け行っており、利用者様にも面会や行事への参加を喜んで頂いている。民生委員の方にも協力頂いており、地域の行事(祭り、文化祭)への参加も行っている。外出支援の際近隣の方と会われる事もあり、関係継続の場となっている。	散歩に出かけ、地域の住民や農作業中の方からの声かけや挨拶があっている。先ごろまでは近くのストアに買い物に出かけていた。知り合いや地域の方の面会も多い。利用者の電話利用の支援もしている。初詣、草薙見学、花見など多彩な年間行事は、利用者の楽しみでもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様に合ったレク活動を提供するように努めている。グループ活動が困難な利用者様には、個別に対応行いその方にあったレクをし、孤独感を感じられないように支援に努めている。利用者様同士のトラブル時は、適時スタッフが介入し個別配慮、誘導行っている。	利用者にあったレク活動を提供するように努めている。グループ活動が困難な利用者に対してはスタッフが個別に対応行い孤独感のないよう支援に努めている。利用者同士のトラブル時は適時スタッフが介入し個別配慮、誘導行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や移設などで契約終了されたあとも、入院先へ面会へ伺ったり、ご家族様から相談などあられる時は側面サポートできるようにしている。	入院や移設などで契約終了されたあとも、入院先へ面会へ伺ったり、ご家族様から相談などあられる時は側面サポートできるようにしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当者会議の時には、個々の担当者がご本人様とご家族様の希望や意向をお聞きしている。参加可能な利用者様には参加頂き、希望や意向をお伺いし、その方に合ったケアを提供出来る様に検討行っている。	担当者会議の時には、それぞれの担当者でご本人、ご家族様のご希望、ご意見を尋ねている。また、本人様やご家族様へ参加して頂き、希望や不満をお聞きし、一人ひとりにあったケア、サービスを検討行っている。	利用者ごとに職員は担当者制をとっており、日頃から細かい点まで意思疎通ができています。何気ない行動、ちょっとした表情の変化やつぶやき、会話等からも思いを把握している。それらの情報は共有し、支援に活かされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴などを十分に把握し、以前使用されていた家具やテレビなどを自室に置いて使用して頂いている。馴染まれた環境に近い状態で生活して頂けるように支援している。	馴染みの空間を作って頂く為に、以前使用していた家具やテレビ、仏様の事を気ががりに思われる方には仏壇を自室に置いて頂き、馴染みの環境の中で生活して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プラン実行中も介護支援ノートへの記載を行い日々の記録、申し送りなどを参考に利用者様の現状の把握に努めている。	プラン実行中も介護経過の記載を行い、表情や行動、日々の記録のを参考に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議に出席できない医師やご家族様、介護スタッフの意見も集約出来るように書式を用意し、会議で活用し介護計画作成に繋げている。状態変化に伴う臨時会議は、可能な限りご家族様にも参加して頂けるよう日程調整している。	様々な意見やアイデアを基に医師やご家族、介護スタッフの意見集約出来るような書式を作成し、状態変化に伴う計画変更も即時に行っている。出来るだけご家族の意見要望などを取り入れるよう心掛けている。	利用者や家族の生活に対する意向を踏まえて、実現可能な具体的なサービス計画が全職員で作成されている。課題、目標、援助内容を関連づけて利用者本位に計画されている。家族を含めてサービス担当者会議に出席できない職員の意見は、わかりやすく見やすい書式を工夫して、計画作成が行われている。まさに、チームで作成した介護計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り簿に日々の状況を記載し、また支援ノートに詳細を記載していく事で、全職員が利用者様の現状(情報)を共有し、現場でのケアや介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や申し送り簿に日々の状態を記載し、また施設介護経過に詳細を記載していくことで、全職員が利用者様の現状(情報)を共有し、現場での実践と介護計画の確認に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化やご家族様の要望などに応じて、併設している病院の医師と連携、他の医療機関への受診も含め対応する等、柔軟な対応に取り組んでいる。	利用者様の状態の変化や家族様の要望などに応じて、併設の病院医師と連携、他の医療機関への受診も含めて対応するなど、柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に一回、地元の方がボランティアで踊りや歌などのレク活動をして下さったり、地域の関係機関や組織から情報を得て、積極的に地域行事に参加して地域とのかかわりを大切にしたい支援に努めている。	週に一回、地元の方がボランティアで踊りや歌などのレク活動をして下さったり、二カ月に一度の頻度で傾聴ボランティアや踊りの訪問に見えたりして、地域の関係機関や組織から情報を得て、積極的に地域行事へ参加し、地域との関わりを大切にしたい支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業 所の関係を築きながら、適切な医療を受 けられるように支援している	かかりつけ医への受診は基本的にご 家族様に依頼している。ご家族様や 本人様が安心して受診して頂けるよ う、併設の病院と連携しながら連絡調 整を行うなどしている。急な体調の変 化がある場合は、職員同行で受診し ている。	ご家族様やご本人様が安心してかか りつけ医に病院受診して頂けるよう に、併設の病院とも連携を取りなが ら、連絡調整を行うなどの支援を行っ ている。	利用者と家族が希望する病院での受 診診察である。居宅指導医の選択も 任意である。夜間の緊急な救急時に は、協力医療機関に相談すると共 に、管理者や夜勤者が連携をとって 救急対応をしている。歯科医は訪問 歯科での受診を支援しており、利用 者や家族も何かと助かっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえ た情報や気づきを、職場内の看護職員や 訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利 用者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	週に一回、医療連携をとっている併 設の病院から看護師が来ており、利 用者様の現状報告をしている。また、 日々のケアの中で留意することなど を相談し助言をもらっている。特に気 になる利用者様に関しては看護師か ら主治医へ報告を行い、適切な受診 や看護が受けられるよう支援している。	週一回、医療連携をとっている併設 病院の看護師が来られ利用者様の 状況報告を行っている。又日々の支 援の中で留意することなど、相談助 言を頂いたり特に気になる利用者様 については、看護師より主治医へ報 告を行い適切な受診を受けられるよ う支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や 相談に努めている。又は、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている。	利用者様の入院時は、病状の把握 のための訪問やご家族様との連絡を 密にしている。また早期退院に向け て病院関係者との情報交換に努め、 ご家族様や本人様が安心して治療に 専念できるよう努めている。	利用者様の入院時には、病状の把握 のための訪問や、ご家族様との連絡を 密に行うようにしている。また早期退 院に向けて病院関係者との情報交換 に努めながら、CFへも出席しご本人 様、ご家族様が安心して治療に専念 することが出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する話、特変時 の対応など話している。また、状態 の変化に応じて、併設病院と医療連 携し、ご家族様と相談、家族の意志 を尊重し、ホームで出来ることを説明 しながら、方針を共有できるよう取り 組んでいる。	契約時に看取りに関する説明特変時 の対応など話している。又、状態の 変化に応じて、看護師も交えながらご 家族様と相談し、ご家族様の意思を 尊重しホームで出来ることを説明しな がら、方針を共有出来るよう日々取 組んでいる。	重度化や看取りに関する指針が備え られ、入居時や入居後の状況の変化 に応じて、家族と納得のいく話し合 いが行われている。家族の意思、要望 による看取りの事例が2例ある。いず れも主治医、職員、家族と方針を共 有しながら最期を看取っている。職員 の不安やストレスにも配慮しながら、 職員全員で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急法講習会に参加している。定期的な訓練の実施はできていないが併設病院の医師、看護師に早急に連絡を取り、適切な指示を受けて対応できるように努めている。	定期的な訓練は実施出来ていないが、併設の病院(医師、看護師)に早急に連絡を取り適切な指示を受けて対応できるように努めている。又、管轄の消防署主催の救急法講習会に参加し訓練を繰り返し重ねていくことで、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回防災訓練を実施。119番マニュアルや夜間火災、停電など対応マニュアルを作成している。また近隣の方がベルで驚かれない様、日時のご案内や参加を呼び掛けている。地震や水害などの訓練やマニュアルは出来ておらず、現在説明会などに参加して情報を収集している段階である。	防火管理者の職員を中心とした防災訓練を年に二回実施。119番マニュアルや夜間火災、停電などの対応マニュアルを作成している。又、運営推進会議では区長さんや民生委員さんなど外部の意見や提案を頂き地域との協力体制を築いている。	防火対策計画や災害対策のマニュアルに基づき、定期的に訓練が実施されている。近隣住民の協力も得ている。訓練後の反省も含めて、運営推進会議にも情報を提供し、地域からの意見をもらっている。思わぬ自然災害や地域特徴から起こり得る災害対策を検討中である。防犯対策についても、話し合いが持たれている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会の中で言葉かけ、日々のケアについて定期的に振り返りをしている。プライバシーの保護や個人の尊厳を常に意識しながら、対応行うように心がけている。	勉強会やミーティングで日々の言葉かけの振り返りを行い、実践においてプライバシーの保護や個人の尊厳を常に意識しながら声かけ、対応を行うように心がけている。	権利擁護や具体的な接遇に関する勉強会を持ったり、日常の支援の中で常に利用者の尊厳を意識しながらの対応や声かけである。管理者やユニットリーダーも具体的に指導している。個人情報の保護については運営規程にも定められ、きちんと守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通して一人ひとりの思いを汲み取れるように努めている。しかし、認知症の状況によっては、難しい場面も多く一人ひとりの潜在ニーズを掴めているとはいえない。一人ひとりの思いを大切にできる支援に努めたい。	1人ひとりの思いやニーズを、出来る限り把握していけるようコミュニケーションをし理解に努めている。しかし、認知症の状況によって難しい時も多く一人ひとりのニーズを掴めるとは言えない。利用者の自己の思いを大切に出来るよう支援に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのライフスタイルに合わせた支援に心がけ、一人ひとり起床時間や就寝時間は様々である。ホームのスケジュールに合わせて頂いていることも多いが、全職員がそのことを反省し自覚しながら、出来る限り、利用者の希望に沿った支援ができるように努めている。	出来る限り、利用者のペースに合わせて支援を心掛けているがホームのスケジュールに合わせて頂いている事も多い。また、業務優先になっている事も多く職員がそのことを自覚し反省しながら利用者の希望に沿った支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ADLの状態から美容室へ通うことが難しい利用者については、地元の美容室に訪問カットをお願いしている。また、ご家族の協力もあり行きつけの美容室に送迎して頂いている方もおられる。	美容室にはご家族様で送迎して頂いたり美容室の送迎車で行かれています方もいらっしゃいます。美容室へ通う事が困難な方には地元の美容室に訪問カットをお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をしていて。ADLの状態から調理される方は少なくなりましたが、配膳や下膳をして下さる利用者はおられる。	料理は職員が時間に追われてなかなか一緒に出来ないている。中でも野菜の皮むき等は利用者の希望があればして頂いたり配膳や下膳や食後の食器洗いなどをしたりとそれぞれに出来る事をして頂いている。	職員も利用者と一緒に同じ食事をいただいている。食事の支援は、声をかけながらも、それとなくである。食べ終わった後に職員や利用者同士でおしゃべりしている方もある。献立は法人の管理栄養士が立てるが、利用者の嗜好や誕生日には献立のアレンジも行っている。調理の音や匂いは、利用者の食欲や五感を刺激している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設病院栄養士が立てた、献立表を使用し調理し、その方に応じた食事形態で提供している、又食欲減退されている方には、ご家族と相談をし、栄養補助食品を利用している。水分補給も利用者様の好みで提供したり、ムセのある方にはトロミ対応を行っている。水分摂取量は日々記録を行っている。	併設病院の栄養士が立てた献立表を使い調理し、その方に応じた食事形態(刻み・1口大)や量で提供している。水分摂取量は随時チェックし1日の水分量が少ない方は好みの飲み物などで水分補給できるように工夫しムセがあらわれる方にはトロミをつけて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、自立されている方は声掛けや、見守りにして頂いている。介助が必要な方には職員で対応し口腔内の状態観察も行っている。義歯は就寝時に洗浄液につけて頂いており、残存歯は磨きのこしを介助している。又歯医者への往診にも来て頂いている。	義歯を使用している方は、夜間に全員洗浄剤に浸けて頂いているが自立されていてご本人でされている方については口腔内の確認が出来ていない。家族様と相談し歯科往診を定期的に受けておられる方もいらっしゃいます。	/	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄のパターン把握をし、声かけやトイレ誘導し汚染減少、不快感軽減に努めています。認知症による、排泄動作の戸惑いのある方については、見守りや介助を行い、失敗による不安や羞恥心を最小限にするよう支援しています。	自発的な訴えが難しく誘導が必要な方については、本人様の様子を伺い声掛けに工夫をしている。尿、便汚染時の本人様の不快感の軽減に努めている。排泄時の失敗による不安や羞恥心を最小限に抑えて支援しています。また、本人様の出来る範囲は声掛けを行ない自立支援を促しています。	一人ひとりの排泄状況や習慣が把握され、それとない声かけやトイレ誘導などその方にあった支援が行われている。排泄動作に不安な方には、見守りや介助によって不安や羞恥心の減少に努めている。自立支援に視点を置き、改善が見られた方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックの把握をし、食間のおやつ時や、入浴後に水分補給を必ず行い、その他果物など食べて頂き、こまめに水分補給出来るよう努めています。また、日々の廊下歩行や、朝の体操で体を動かして頂いています。なお慢性的な方には、投薬で対応します。	慢性的な便秘の方には緩下剤を服用して頂いてますが、日頃から水分摂取を細めに行って頂いています。水分を残されている方には声掛けを行ない最低限の摂取を促しています。また、日頃から水分摂取が少ない方には個人のヤクルトや様々な好みの飲み物を摂取して頂いています。	/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週3回月、水、金(冬場は月、金の2回)を入浴日にして頂いてますが、入浴拒否される場合は本人様にお尋ねし希望を聞いて対応しています。入浴時はバイタルの把握をし、個々にあった水温調節等の入浴支援を行っています。また入浴剤で温泉気分や、香りなど楽しんで頂いています。	原則週3回、火・木・土を入浴日(冬場は火・土の2回)に設定。毎回、入浴剤を入れ気分を楽しんで頂いてます。身体の状態に合わせて午前と午後に分けたり入浴中止の方には温タオルで清拭。入浴拒否の方には様子を伺い次回の入浴日に見送ったりし本人様に無理のない支援をしています。	基本的な入浴日はあるが、毎日入浴の準備はできており、希望する方は何時でも入浴ができる。入浴時間や順番等には特別な決まりは無く、ゆっくりとした入浴ができています。入浴がおっくうな利用者には無理強いの事は無く、言葉かけを工夫したり、足湯等で支援している。ヒートショック対策の工夫も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで、就寝されています。好きなTV番組終了後や、雑誌を持って居室へ戻られる方も居られます、以外の方は声掛けをし本人様の意志をお聞きして誘導就寝介助を行っています、午睡もそれぞれの希望に対応行っています。	日中は個々のペースで昼寝、休息をされています。就寝時間は定まっておらず自室やDルームで読書、テレビ視聴される方と様々です。本人様の状態によっては付き添いや寄り添ったりと安心されながら気持ちよく就寝に至れるように支援していらっしゃる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴をある程度理解しており、錠剤の服用の難しい方については、粉碎して飲んで頂いています。口中介助が必要な方にはその都度介助行っています。臨時薬には袋に赤い線を入れ、変更時には申し送り簿に記入する等服薬情報も職員が把握できるようにしています。	現病歴と薬剤の関連性について理解することに努めています。錠剤での服用が困難な方は粉末にしゼリーで負担なく飲まれたり、服薬量が多い方にはオブラートに包んで服用される方もいます。薬の変更、臨時薬がある時は申し送りで口頭で共有し記録。臨時薬袋に赤い線を入れ定期薬と区別して。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や、折り紙、新聞、広告紙を折る、洗濯物をたたむ干すなど自主的あるいは、声かけにて行われています、花活けをされる方もいらっしゃいます。毎週ボランティアによる歌や、踊りなど一緒に歌われ楽しんでいます。	積極的に仕事を得意とされる方には、洗濯物を干して頂いたり本人様、個々の出来る範囲でして頂いています。歌や塗り絵といった様々な得意分野を生かし職員と一緒に行ってます。季節に合わせた行事や誕生日会は皆さん楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不定期ではあるが家族様と外食されている利用者もいます。誕生日の方がいる時には要望をお聞きして外食したり可能な限りお応えしている。車イスの方が増え近隣散歩は減ったが、天気の良い日はドライブを楽しんで頂いている。	ご家族と定期的に外出や外泊をされる方もいらっしゃいます。普段、外出の機会が少ない時は15時のおやつ時間にテラスへ案内し新聞を折って頂いた後におやつを頂いたり少しでも外の空気を味わって頂けるよう支援しています。	近所を散歩したり、広い芝生のある庭で、日光浴や、たまには食事をしながら、自然の移り変わりや外出の気分を感じてもらっている。家族との外食や外泊の支援も行われている。ドライブや地域行事に出かける機会も多く、家族も一緒に出かける等の協力もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様やご家族の方とよく相談し、ご理解のもと自己管理をされている方又事務所で職員管理を希望されている方への支援を行いいずれにしても自由に希望に応じた使用が出来るようになっていきます。	美容室用代など外出時用に持っておられる方、電話代程度の金額を持たれている方、手元に持っている事で安心される方、様々です。ご家族様と話し合った上で自己管理されています。また、ご家族様が全ての管理をされている方、必要な生活用品の購入用に事務所管理をされている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により介助または自立にて自由に電話や手紙を書くことが出来、ご家族と連絡が取れるようにし、毎月の家族様におくる個人たよりに、メッセージを書き込んだりの支援を行っています。	ご本人が電話を希望される場合は電話をかけたり、手紙のやり取りをして頂いています。携帯電話をお持ちの方もおられ、自室で自由にご家族様と電話をさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Dルームの本棚には季節の花を飾ったり、自席またはソファ等で思い思いに寛いでいただいています。又、台所は皆さんから見えるところにあり、食事を楽しみにされています。Dルームの共用トイレはカーテンで目隠しされ、不快にならない様配慮しています。	壁に季節を感じてもらえるように月ごとにポスターを貼ったり、花を飾ったりしています。また、共有スペースを心地良く過ごして頂けるようにその都度、ソファの配置や食席の配置の工夫をしている。また、共用トイレはカーテンをし、不快にならないように配慮している。	フロアは、自然光で明るくて静かである。無用な刺激も感じられない。ソファやテーブルが効果的に配置されている。利用者は、そこで仲良しの方とおしゃべりをしたり、横になったりして思い思いにくつろいでいる方もある。唱歌を掲示したり、利用者に馴染みのある月刊誌や新聞も置いてあり、愛読されている方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で廊下を歩かれたり、自室で折り紙をしたり、ソファで数人と談笑されたりと、自由にそれぞれが過ごされています。	食席で新聞を見られる方やソファでテレビを見たり、お昼寝をする方もいます。仲の良い利用者様はおしゃべりを楽しまれたりして過ごされています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、不都合な物、特にマッチ・ライターの無い限りご本人の馴染みの家具や品物を持参して頂き、不安が減少出来る様助言等対応しています。又、写真やお気に入りの品等を身近に置く事で、スタッフとの話題づくりに役割を果たしています。	入荘の際、本人の馴染みのある家具や品物を持参して頂き、自宅で過ごされていた時と同じような空間で落ち着いた生活を送って頂けるよう対応している。また、家族との写真や大事にされていた品物などを置くことでご本人の不安の軽減に努めています。	使い慣れた家具、長年親しんだ馴染みの品物、趣味の道具など、各居室がその方らしい構成になっており、ゆっくりと落ち着いて過ごせる暮らしの場所になっている。家族の写真、趣味の作品、テレビ、たんすなど色々なものが見受けられた。亡きご主人の仏壇に、毎朝、水をあげて拜んでいる方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	Dルームでは、トイレ・廊下に手すり等を設置し、安全に生活できるよう、又各部屋にはトイレ洗面台等が設置され、自力で「できること」「わかること」が出来やすくなっています。毎食後の歯磨きも、ご自分で出来る様介助し工夫しています。	各居室にトイレや洗面台が設置され自力で使い易くプライベートな部分も守られています。Dルームのトイレや廊下、浴室などの共用スペースには手すりがあり利用者様が安全に生活できるよう工夫をしています。ベッドは利用者様の状態に応じ、起居動作のしやすいベットを使用しています。	/	

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○		1. ほぼ全ての利用者の
			○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある
		○		2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○		1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない